宮城県内の震災伝承施設

数ある震災伝承施設の中から今号では３カ所を紹介します。内容は各施設の Web ページ（2020 年 12 月現在）などから抽出しています。開館状況などについて最新情報をお確かめの上、ご利用ください。

せんだい 3.11 メモリアル交流館

〒984-0032 仙台市若林区荒井字沓形 85-4（地下鉄東西線荒井駅舎内）
TEL.022-390-9022［入館無料］
http://sendai311-memorial.jp/
開館時間：10:00 ～ 17:00
休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）、祝日の翌日（土・日・祝日を除く）、年末年始、臨時休館日

「東日本大震災を知り学ぶための場であるとともに、津波により大きな被害を受けた仙台市東部沿岸地域への玄関口でもあります。交流スペースや展示室、スタジオといった機能を通じて、みんなで、震災や地域の記憶を語り継いでいくための場所です。」

震災伝承スペースつなぐ館

〒986-0835 石巻市中央２丁目 8-2 ホシノボックスピア 1F
TEL.0225-98-3691（3.11 みらいサポート事務所）［入館無料］
https://311support.com/spot/learning_space/
開館日時：火～土曜日　13:00 ～ 17:00

「東日本大震災の記憶を後世へとつなぐ情報ステーションとして 2014 年３月に開館、伝え続けることで救える命があることを信じ、防災・減災の取り組みや、安心・安全な街づくりへの貢献をめざして運営しています。2015 年４月に移転し「奪い去られたもの、失うまいとしたもの」と題したコンセプト展示を中心に、中心市街地の模型や地元メディア、ボランティアの活動記録などを紹介しています。」

気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館

〒988-0246 気仙沼市波路上瀬向 9-1
TEL.0226-28-967［入館料あり］
https://kesennuma-memorial.jp/
開館時間：（10 月～３月）9:30 ～ 16:00（最終受付 15:00）
（４月～９月）9:30 ～ 17:00（最終受付 16:00）
休 館 日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館）、祝日の翌日（土日、GW 期間を除く。）、年末年始（12/29 ～ 1/4）

「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館は、将来にわたり震災の記憶と教訓を伝え、警鐘を鳴らし続ける「目に見える証」として活用し、気仙沼市が目指す「津波死ゼロのまちづくり」に寄与することを目的としています。」

第52回 名著への旅

『市民のネットワーキング 市民の仕事術Ⅰ』
加藤哲夫 著
メディアデザイン（仙台文庫）
（2011年6月30日初版発行）

出版社「カタツムリ社」、エコロジーショップ「ぐりん・ぴいす」、NPO 法人「せんだい・みやぎ NPO センター」などを立ち上げ発展させた著者が、人との出会いや結びつき＝「ネットワーキング」をどのようにつくっていたのかを余すところなく明らかにしている書であるが、要点の一つに＜ネットワーキングとは、「異質なるものに出会い、学ぶ」方法である＞とある。

情報化が進み各人が収集・発信する情報量は、ここ数年で莫大に増えたものの、同質的なものばかりを身近にあふれさせがちとなり、別の視点で考える、多様性を受け入れる、ということが不得手になる傾向はむしろ高まっているのかもしれない。

そこで、異質なものと意識的にネットワーキングしよう、という著者の呼びかけが響く。「他者と出会うことなしに、主体である自分は起動しない。他者の存在なしに、自分は存在しない。社会を生き抜くための主体は、他者によって呼び覚まされる」という著者のネットワーキング哲学は、NPO などの市民活動にとってのみならず、社会の中で存在意義を発揮し存続するためのビジネスにとっても重要と思われる。

『市民のマネジメント　市民の仕事術Ⅱ』も併読し、より豊かに「生きるための術」を学びつづけたい。（前進）

「まなびのめ」Web 版へ ようこそ！

Web 版の＜イベント情報＞では、紙版に掲載しきれなかったものや、申込方法などの詳細情報もお知らせしています。
ぜひ Web 版もご活用ください。

「学び」イベント情報 募集中!!
Web版は随時更新。紙版次号向けには3月初旬までに情報をお寄せください。
掲載料は無料です。

学びの庭におじゃまします　次号テーマ：「人と動物」
2021年4月5日発行予定

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先／問い合わせ先
〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
（FAXは24時間受付　電話受付時間10:00~16:00 土・日・祝日除く）
manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第51号／発行日2021年1月5日
企画・編集　「まなびのめ」編集部／発行　笹氣出版印刷株式会社
「まなびのめ」編集部　川又進　菅野麻実　三上志穂　庄司真希
オブザーバー：笹氣義幸　寺田征也（明星大学）
協力：株式会社市瀬　有限会社阿部正志製本

©笹氣出版印刷株式会社　無断で複写、複製、転載することを禁じます。

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙はFSC®認証材および管理原材料から作られている紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

UD FONT

ご自由にお持ち帰りください。
TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付クイズあります
詳しくは中面へ

仙台発 学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

季刊誌 2021. 1 第51号

学びの庭におじゃまします　シリーズ「東日本大震災」【10】―コミュニティ―

コミュニティはスイカ型からブドウ型へ

東北工業大学 建築学部（建築学科）准教授
（建築計画・住まいまちづくり）
新井　信幸 先生

災害によるコミュニティの移転を考える

東北大学災害科学国際研究所　准教授
（都市計画・建築計画）
井内加奈子 先生

行ってみよう！「学び」の場所へ

- これからの主な「学び」イベント 27件 掲載！
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『市民のネットワーキング 市民の仕事術Ⅰ』（加藤哲夫）
- Voice Park

ISO 14001 JQA-EM4031

Web版 随時更新中！ まなびのめ
http://manabinome.com/

発行／笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要
▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

詳細は Web 版に掲載しております。http://manabinome.com/

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

オンデマンド配信

オンライン公開講座「コロナ禍で活きる宮城大学の知」：「病気に負けない体をめざして～食と免疫～」　無料　申込不要
講　師　森本素子氏（宮城大学食産業学群教授）
場　所　https://youtu.be/pa2U1IowG2I
主催者　宮城大学　問合先　TEL 022-377-8319

オンライン公開講座「コロナ禍で活きる宮城大学の知」：「生活習慣病と新型コロナウイルス感染症」　無料　申込不要
講　師　風間逸郎氏（宮城大学看護学群教授）
場　所　https://youtu.be/mgmjV6bdykY
主催者　宮城大学　問合先　TEL 022-377-8319

オンライン公開講座「コロナ禍で活きる宮城大学の知」：「生活の中でやってみよう！新型コロナウイルス感染症対策」　無料　申込不要
講　師　松永早苗氏（宮城大学看護学群特任講師）
場　所　https://youtu.be/eKi6WVLuSLg
主催者　宮城大学　問合先　TEL 022-377-8319

【Web 配信】2020 年度東北産業経済研究所シンポジウム「新型コロナウイルス感染症の地域経済への影響」　～3月31日(水)　無料　申込不要
パネリスト　地元民間企業、地方公共団体、教育研究機関関係者６名
場　所　https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/info/tousanken.html
主催者　東北学院大学　東北産業経済研究所　問合先　TEL 022-264-6362

市民公開講座 No.495「炭素を使った地球温暖化防止へのアプローチ」　無料　申込不要
講　師　下位法弘氏（東北工業大学電気電子工学科教授）
場　所　https://www.youtube.com/watch?v=8uXHyUEnr_w&feature=youtu.be
主催者　東北工業大学地域連携センター　問合先　TEL 022-305-3817

市民公開講座 No.497「新美南吉 童話の世界」　無料　申込不要
講　師　大木葉子氏（東北工業大学総合教育センター准教授）
場　所　https://www.youtube.com/watch?v=yVU8Pu2_hr8&feature=youtu.be
主催者　東北工業大学地域連携センター　問合先　TEL 022-305-3817

定期開催

トワイライトサロン「土佐誠の宇宙が身近になる話」　毎週土曜日　17:00▶17:45　無料　申込不要
講　師　土佐誠氏（仙台市天文台名誉台長）
場　所　仙台市天文台オープンスペース
主催者　仙台市天文台　問合先　TEL 022-391-1300

開催中

小企画展「昆虫標本展～昆虫のくらしを探る髙橋雄一コレクション～」　～1月27日(水)　9:00▶16:45　無料　申込不要
場　所　スリーエム仙台市科学館エントランス
主催者　スリーエム仙台市科学館　問合先　TEL 022-276-2201

企画展「うみべの小学校」　～1月31日(日)　10:00▶17:00　無料　申込不要
場　所　せんだい 3.11 メモリアル交流館　２階展示室
主催者　せんだい 3.11 メモリアル交流館　問合先　TEL 022-390-9022

学びの庭におじゃまします

あの「3.11」からまもなく 10 年。「まなびのめ」のシリーズ「東日本大震災」も 10 回目となります。
今回は私たちの「暮らし方」に大きく関わる「コミュニティ」について学び、考えてみます。
お一人目は、研究とともに NPO での実践も続けている東北工業大学・新井信幸先生です。

コミュニティはスイカ型からブドウ型へ

今ある建物の再活用で満足度を高める

建物を新しく造ることだけが建築ではありません。むしろ今は既にある建物に手を入れて、活かして使うことに注目が集まっています。建物や景観を破壊しては造ることを繰り返した時代から、資源を大切にし、建物やまち並みの記憶に価値を認め、そこで生きる人々の満足度を高める建築やまちづくりが求められる時代になったのです。

高齢化や人口減少に悩む地域もあれば、隣に住む人の顔も知らず、高齢者だけでは暮らしにくい高層住宅が立ち並ぶ地域もあります。空き家や閉店するお店が増える一方で、住む家に困っている人や、事業を始めたいのに条件に合う物件が見つからない若者もいるのです。私は主にこうした問題を、建築やまちづくりで解決する手立てについて研究しています。

現場を何度も訪問し、住民や建物の所有者、利用者と話し合いを重ねる中で、専門家だけではとても思いつかない解決策が生まれることがあります。新しくまちや建物を造る場合でも、そこで暮らしたり働いたりする予定の人々に集まってもらい、希望を聞いたり関係づくりをしながら計画を立てる方が、専門家だけで考えるよりずっと素晴らしいものになるのです。私はこうした知恵を経験から、特に東日本大震災の被災者の方々から学んできました。

最初はデザインへの関心から大学で建築を学び始めました。当時のテレビドラマでおしゃれな部屋を見て「かっこいいな」と（笑）。ところが授業で様々な建物やまちを見学するうちに考えが変わったのです。美しくデザインされた団地を訪ねても、誰も外を歩いていない様子には不氣味さを感じました。一方で雑然としていながらも活氣があったのは、ワケありの人々が暮らすまちです。ちょっと怖い感じの人も住んでいましたが（笑）、人情があって居心地は最高でした。

建物や道路などのハードはもちろん大切です。しかしそこで、どんな人たちがどんな暮らしを営むのかというソフトはもっと大切です。建物やまちに人が合わせるのではなく、人の暮らし方や働き方に合わせて建物やまちを造ったり造り替えたりするのが本当でしょう。見た目の美しさや立派さを追求するだけが建築デザインではありません。人々の暮らしや、人々が集まる場であるコミュニティをデザインすることも、建築学の大切な役割なのです。そう考えるようになり、修繕して使い続けるリフォームや、改装・改築で建物や部屋の用途を変えて再活用するリノベーションの勉強に力を入れるようになりました。

情報不足の中で震災直後に帰国

卒業後は大学院で学び、仕事をする一方で現場を歩き続け、外国人や障害者・高齢者など立場の弱い人々の住まいの確保や、古い建物の再活用などの課題に取り組んできました。前職の勤務先は、こうしたテーマについて自治体に情報を提供したり、NPO（非営利組織）や市民活動団体を支援したりする財団です。関東で生まれ育った私が、ご縁をいただいて東北工業大学に赴任したのは 2009 年でした。

近い将来、宮城県沖地震が高い確率で発生するという知識はもちろんありました。心構えも備えもしていたつもりです。しかし東日本大震災が発生した 2011 年 3 月 11 日、私はなんとパリにいました。30 名の学生が 2 週間にわたってヨーロッパ各地を見学して回る、研修旅行の引率教員だったのです。

ちょうど全日程を終えて帰国する日でした。現地ではまだ朝 7 時前で、ホテルから空港に向かうバスの中でネットに接続すると、報道される地震の被害がどんどん大きくなります。日本には電話もメールもつながらず、添乗員やもう一人の先生と相談しても手の打ちようがありません。乗り換え便は予定通りウィーンまで飛びましたが、空港のテレビは津波や東京電力福島第一原発の映像を流しています。4 時間ほど足止めされ、行き先は未定のまま離陸した帰国便が、結局成田に到着したのが 12 日の午前 10 時半頃でした。

幸い大学に戻る貸切バスは予定通り来ていましたし、私自身は家族の無事を確認することができました。しかし高速道路は使えず、一般道も寸断され、迂回すれば行き止まり。食料や物資を調達しようにも、どこの店も既に品薄。用を足そうと思えば、公衆トイレは全て断水。17 時間かかってやっと大学に着いたのが、翌朝の 5 時半です。停電し、日の出前で暗かった大学の建物の床に、大勢の人が横たわっているのに氣づいた時には驚きました。近くの住民の方々が避難してきていたのです。激しい揺れ、家屋の損壊、電氣ガス水道や通信の停止を直接体験した方々の大変さは、私たちの比ではなかったでしょう。

研修の参加者はほぼ全員がその日のうちに帰途につき、私も帰宅して車の中で過ごしていた家族に再会することができました。しかし家を失った多くの人々が避難所に身を寄せていて、その中には仮設住宅や災害公営住宅で暮らすことになる人もたくさんいるのです。めちゃめちゃになった自宅と研究室を片付け、大学の再開に向けた業務に追われながら、私は自分の研究と経験を活かして被災者の支援活動を始めました。

空間のデザインから場のデザインへ

学生たちと特に何度も足を運んだのは、仙台市太白区長町の仮設住宅です。資材と道具を持ち込み、「収納がなくて困る」と聞けば入口の脇に物置を作るなどして入居者の方々を支援しました。仙台以外からの入居者も多く、それまでの地域コミュニティから離れてさぞ不安だったことでしょう。しかし工作に励む私たちに声をかけてくださったことが、入居者同士で会話するきっかけにもなったようです。

私たちは食事や交流会などに取り組む他の団体と連携して活動し、2012 年 6 月には自治運営やコミュニティ形成を検討する住民組織「あすと長町コミュニティ構築を考える会」の立ち上げをサポートし、2016 年 12 月には、これらの経験を踏まえて「NPO 法人つながりデザインセンター」を設立しました。いずれも代表は仮設・災害公営住宅で暮らす方です。私たち外部の人間は専門性や経験を活かして入居者を支援し、時には行政や民間事業者との仲介役も務めました。

長町に仙台市の災害公営住宅が建設されることが決まると、私たちは 80 名を超える被災者の方々と半年以上も学習会を重ね、希望を出し合い、世帯の配置や間取りを検討しました。そして大手の建設業者や設計事務所と連携し、費用面でも自信を持って市に案を出したのです。他の案が採択されたことは、今でも残念でなりません。しかしこうした活動を通して被災者同士が結びつきを強め、自分たちの将来を考え、自治の機運が高まったことは、その後に大きなプラスになりました。仮設でつながった 80 世帯以上がまとまって災害公営住宅に移る「コミュニティ入居」が実現しましたし、集会所に外部の団体を入れて開く「食堂」も継続しています。

仙台市以外でも、私たちの提案が受け入れられ、災害公営住宅の運営に活かされている例は少なくありません。私たちは今、入居者の孤立や孤独死を防ぐだけでなく、集会所を活用した居場所づくりなどによって、広く地域コミュニティの課題を解決する活動に取り組んでいます。エリアも東北、全国へと広がりました。また、新しい暮らし方を求める人のためのシェアハウスとして空き家を活用する事業なども進行中です。

旧来の町内会や自治会は多くの役割を果たしてきましたが、都市化や情報化社会にあって時代に合わなくなった面も否定できません。大きな単位での地域の団結や、すべての構成員間の親睦を図るよりも、個人を基にしたいくつもの小さな集まりが機能し、課題に応じて大きくまとまって活動する方が、今の時代には合っているのです。私はこれを「コミュニティはスイカ型からブドウ型へ」と説明することにしています。建築学のテーマで言えばスペースからプレイスへ、空間のデザインから人・モノ・コトをつなぐ場のデザインへ、ということになるでしょう。東日本大震災から間もなく 10 年です。ぜひご自身の問題として、被災者支援やコミュニティについて考える機会を持っていただきたいと思います。もちろん私も研究や NPO の活動を通して、取り組みを続けていくつもりです。

（取材＝ 2020 年 11 月 11 日／
東北工業大学　八木山キャンパス　5 号館 5 階新井教員室にて）

東北工業大学 建築学部（建築学科）准教授
専門＝建築計画・住まいまちづくり

新井　信幸先生

《プロフィール》（あらい・のぶゆき）1972 年神奈川県生まれ。千葉大学博士課程修了。学術博士。民間財団研究員を経て、2009 年 4 月より現職。グッドデザイン賞、都市住宅学会業績賞、日本都市計画家協会賞を受賞。認定 NPO 法人「つながりデザインセンター」副代表理事を務め、同センターは復興庁の平成 30 年度「新しい東北」復興・創生顕彰を受賞した。

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびのめクイズ　正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1 新井信幸先生が副代表理事を務めるNPO法人の名称は？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。井内加奈子先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mail のいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2021年3月10日 当日消印有効

学びの庭におじゃまします

災害後のコミュニティ移転や維持が大きな課題となることは日本だけのことではありません。
国内外の事例から教訓を学ぶことも大切、ということで、
海外事例の調査・研究をされている東北大学災害科学国際研究所・井内加奈子先生にお話を伺いました。

災害によるコミュニティの移転を考える

欧米ではコミュニティ単位での移転は珍しい

2012 年に設立された東北大学の災害科学国際研究所で、日本や他国で発生した災害や復興・防災について研究しています。日本で過去に発生した災害について詳しく調べ、復興や防災に役立てることはもちろん大切です。しかし数十年の時間が経過した災害の場合、今とは政治・経済・社会的背景などが大きく違っていることがあります。

一方、世界に目を向けると、東日本大震災以後も巨大災害が相次いで発生しています。2013 年にはフィリピンで台風によって、2018 年にはインドネシアで地震と津波によって、何千人もの方が命を失いました。私たちは他国に震災の経験を伝えて防災や復興に貢献することと合わせて、同時代の他国の事例を調べて日本にとって貴重な知見を得ることが重要です。

災害の発生後、政府が将来的な減災を目指して被災地への居住を禁じたり集団移転を促したりすることがあります。アジアではコミュニティ単位、集落単位で移転や現地再建が検討され、リーダーや行政が枠組みを決めるのが一般的です。しかし欧米では個人や家族の単位で考え、被災者を支援する宗教的な慈善事業、政府の支援プログラム、保険事業などをベースに、移住や現地での再建が動き出します。21 世紀に入ってからはアジアでも行政が上から命じるのではなく、住民が主体的に判断し、行政がそれを支援する形が増えてきました。また西洋でも個人だけに責任を負わせるのではなく、行政が介入して復興を進めるようになってきています。

同じコミュニティ移転でも、強制的か自発的かによって住民の満足度は大きく違います。もちろん国や地域、災害の種類や規模によってケースは様々です。2010 年にインドネシアのメラピ山が噴火した際は、被災した現地コミュニティの自発性を促す公的な移転事業が注目されました。住民たちは従前に住んでいた土地が危険地域に指定されたあと、国が派遣した職員の助言を受けながらも、自分たちで集落の移転先を決め、住宅・コミュニティの再建を遂げたのです。国際的な枠組みで国に支援された資金の一部を自分たちで管理し、都市計画や建築の専門家や大工職人を直接雇うなどして集団移転を実現しました。

フィリピンで、台風による高潮が沿岸部を襲ったのは 2013 年です。私は現地の大学生を指導しながら、1 万 4 千世帯が対象となった大規模な住民移転を 6 年にわたって追跡調査しました。当初は沿岸部から離れた土地に移転したいという住民の希望が多かったのですが、やがて生活を継続するために移転したくないという人が増えていきます。しかし最終的には、移転先での生活環境が改善されるに従って満足度が向上しました。

最初にしっかりと移転計画を立て、ほぼそれに沿って実現に至る日本は、世界的には特別です。しかし東日本大震災の際に女性・障害者・高齢者・外国人などが避難所で不自由を強いられたように、まだまだ支援や復興の形に改善の余地があります。コミュニティの移転や維持においても、こうした人々の声を反映させる仕組みが必要です。

米国の大学院で新潟県中越地震を研究

2013 年にこちらに赴任するまでは、主に発展途上国の都市や地域の開発計画や防災計画業務に携わってきました。新しく道路や建造物を造り経済的発展を図ったり、自然災害の影響を低減し開発努力の妨げを未然に防いだりすることに取り組んできました。しかし、業務に携わるうちに、開発によって住まいを追われることで精神的・経済的負担を強いられる人々、政策や事業を行うことで抑圧されたり取り残されたりする人々が多くいることも目のあたりにしました。その大部分は貧しかったり、高齢だったり、障害があったり、少数民族だったりという、社会的弱者や少数者です。

私がこうした「弱者・少数者」に強い関心を持つようになったのは、自分自身の経験からです。私は四国の生まれですが、幼少期に父の仕事の都合で米国のボストンに引っ越しました。当時は日本人どころかアジア人も少なかった土地です。突然「珍しい東洋人」になってしまった私は、当事者として弱者・少数者の問題を考えるようになりました。

大学は日本に戻り、都市計画を学びました。卒業後に勤務した日本の開発コンサルティング会社で主に関わったのは、外務省の所管で発展途上国を支援する JICA（ジャイカ）の事業です。途上国の開発や経済援助は、かつてはインフラの整備が中心でした。ダム、発電所、道路、鉄道などを造って経済的・社会的な基盤を先進国に近づけようと、ハードに力を入れていたのです。しかし、国際社会では、やがて自然や住民に配慮した持続可能な開発や、人道的配慮のある発展を模索するようになってきました。そして今では、そこに暮らす人々の経済的な豊かさに限らない生活の充実を図る、ソフトにも目が向けられるようになったのです。こうした仕事に 10 年間携わる中で、私は特に災害における弱者・少数者の問題と、インフラなどのハード整備の両立に関心を深めるようになり、より専門的に学び直そうと米国の大学院に入りました。

2004 年、コーネル大学で研究を始めて間もない 10 月に、新潟県中越地震が発生しました。最大震度 7、死者 46 名、避難者が 10 万人を超えた大災害です。当時の私の主な研究対象はフィリピンのマニラ首都圏における防災の取り組みでしたが、中越地震の被災者の生活や地域の復興には強い関心を持って注視していました。

2006 年に進学したイリノイ大学では、中越地震の復興過程について研究することにしました。集落の移転を中心テーマに定め、現地には 2008 年から翌年にかけて、合わせて半年ほど滞在しています。それまでは統計や地理情報システム（GIS）を活用した分析など、効率的でかつ視覚的にも効果のある「量的」な研究手法に関心がありました。しかし行政や住民の方々にお話を聞く中で、社会学やエスノグラフィー（民族学）の「質的」な手法も取り入れるようになります。

主にお話をうかがったのは小千谷市と、現在は長岡市になっている山古志村の方々です。聞き取りを繰り返し、信頼関係ができるにつれて、本心を打ち明けていただけるようになりました。また地域に長く身を置くことで、発言の背景や考え方も理解できるようになっていきます。復興に関する政治的な力関係など、数値には表せない複雑な事情も見えてきました。

東日本大震災を機に再び日本へ

その後、2010 年から世界銀行に勤務しました。途上国への融資、技術協力、政策助言などを行う国連の専門機関です。私は都市問題を扱う部署で、都市開発と交通の調査研究を担当し、本部がある米国の首都ワシントン DC に住んでいました。

東日本大震災の発生は、現地では日付が 3 月 11 日に変わって間もない深夜でした。パソコンを閉じて眠ろうとした時、日本の友人の「大地震が起きた」というメッセージが画面に表示されたのです。NHK の海外向けテレビを見ると、東日本の海岸線すべてが赤く表示された日本地図が映り、それが津波襲来の予測であることに衝撃を受けました。そして地震、津波、後には東京電力福島第一原発の被害映像を次々と目にしたのです。

それまで東北地方には縁がなく、知人もあまりいませんでしたが、勤務に備えてベッドに入ってもほとんど眠れませんでした。職場の同僚は世界中から集まっています。出勤するとみんなから声をかけられましたが、大きな災害を経験している国の出身者は特に心配してくれて、「きっと日本は立ち直るよ」と励まされました。

6 月には米国の地震工学会のメンバーが現地調査に赴くことになり、これに同行しました。9 月には再び現地を訪ね、自主的に調査を行っています。私のそれまでの仕事や研究は、決められた期間で成果を出して、提言や発表をしなければなりませんでした。時間的制限のもと策定した提言が、途上国の人々に響かなかった経験もあり、もっと時間をかけて災害復興の経過を追い、真実を知りたいと思ったことは少なくありません。東日本大震災の復興にはぜひ長期的に取り組みたいと思い、震災後に設立されたこの東北大学災害科学国際研究所に応募しました。

海外で授業や講演をすると、終了後に学生や聴衆からたくさんの質問を受けます。それに答えることは私にとっても貴重な学びですが、日本ではそうした質問が控えめなのが残念です。私自身は自らの興味や疑問から出発し、考えたり調べたりするうちに、さらに興味を持ったり疑問を抱いたことへと学びを広げてきました。皆さんにも知的好奇心を大切にし、関心を広げて学び続けていただきたいと思います。

（取材＝ 2020 年 11 月 20 日／東北大学青葉山キャンパス東北大学災害科学国際研究所 5 階 人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野研究室にて）

東北大学災害科学国際研究所　准教授
専門＝都市計画・建築計画

井内加奈子先生

《プロフィール》（いうち・かなこ）徳島県生まれ。筑波大学第三学群社会工学類卒業。米国コーネル大学で修士、イリノイ大学で Ph.D.（博士号・地域計画）を取得。開発コンサルティング会社、世界銀行などでの勤務を経て、2013 年より現職。編著に、The 2011 Japan Earthquake and Tsunami : Reconstruction and Restoration - Insights and assessment after 5 years（和訳：2011 年日本の地震と津波：復旧と復興 - 5 年後の見通しと評価）（Springer）など

懸賞 図書カードを当てよう！ まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 井内先生が米国の大学院で研究対象にしていた新潟県中越地震が発生したのは何年何月？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。新井信幸先生の記事もご覧ください。

応募方法 はがき、FAX、E-mail のいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2021年3月10日 当日消印有効

Web版はより多くの情報を随時更新しています。

キーワード・タグ検索もできます

まなびのめ 検索

http://manabinome.com/

開催中

旬の常設展 2020 秋・冬 特集展示「福島美術館の優品」

〜1月31日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要

（入館は 16:15 まで。月曜休館）

場所 仙台市博物館

主催者 仙台市博物館 問合先 TEL 022-225-3074

旬の常設展 2020 冬「特集震災 10 年―災害を生きた人々」ほか

〜3月21日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要

（入館は 16:15 まで。月曜休館）

場所 仙台市博物館

主催者 仙台市博物館 問合先 TEL 022-225-3074

特別展「仙台の災害〜天災は忘れたころに〜」

〜4月11日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要

（入館は 16:15 まで。月曜休館）

場所 仙台歴史民俗資料館

主催者 仙台歴史民俗資料館 問合先 TEL 022-295-3956

1 JAN

市民公開講座 No.515「日本と海外における建築の技能者教育」（オンライン講座）

1月19日(火) 18:00▶19:15 無料 要申込

講師 佐々木留美子氏（東北工業大学建築学科講師）

場所 https://www.tohtech.ac.jp/topics/opencollege

主催者 東北工業大学地域連携センター 問合先 TEL 022-305-3817

令和 2 年度れきはく講座 第 3 回「多賀城碑建立と新羅侵攻計画」

1月23日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講師 柳澤和明氏（東北歴史博物館学芸職員）

場所 東北歴史博物館 3 階講堂 定員 290 名

主催者 東北歴史博物館 問合先 TEL 022-368-0106

令和 2 年度れきはく講座 第 4 回「大崎市団子山西遺跡―古代城柵につながる集落跡―」

1月30日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講師 鈴木啓司氏（東北歴史博物館学芸職員）

場所 東北歴史博物館 3 階講堂 定員 290 名

主催者 東北歴史博物館 問合先 TEL 022-368-0106

2 FEB

令和 2 年度れきはく講座 第 5 回「東北地方の埴輪」

2月 6日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講師 山口貴久氏（東北歴史博物館学芸職員）

場所 東北歴史博物館 3 階講堂 定員 290 名

主催者 東北歴史博物館 問合先 TEL 022-368-0106

民俗芸能講座「口承文芸の世界」第 2 回「昔話―家庭内の口伝え」

2月 7日(日) 13:30▶15:00 無料 要申込

場所 東北歴史博物館 1 階研修室 定員 60 名

主催者 東北歴史博物館 問合先 TEL 022-368-0106

市民公開講座 No.516「幸福とは何か―心理学的観点で考える―」（オンライン講座）

2月 9日(火) 16:00▶17:15 無料 要申込

講師 二瀬由理氏（東北工業大学経営コミュニケーション学科准教授）

場所 https://www.tohtech.ac.jp/topics/opencollege

主催者 東北工業大学地域連携センター 問合先 TEL 022-305-3817

特別展・関連行事 講座「飢饉を生き抜いた人々の姿〜移動する人々〜」

2月13日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講師 菊池勇夫氏（宮城学院女子大学名誉教授）

場所 仙台市歴史民俗資料館 定員 30 名

主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合先 TEL 022-295-3956

参加体験記

「学び」イベントに行ってきました

＜平田オリザ特別講演会＆ワークショップ＞
■学校教育における芸術の役割
講師・ファシリテーター：平田オリザ 氏（劇作家・演出家、劇団「青年団」主宰）
2020 年 11 月 3 日(火・祝) ワークショップ 10：30〜12：30 講演会 13：30〜15：30

11月3日に宮城野区文化センター・パトナシアターで行われた、「平田オリザ特別講演会＆ワークショップ」に参加してきました。演劇教育をどのように学校教育に取り入れるか、ということを長年続けられてきた方ならではのお話をたくさん聞くことができました。

ワークショップでは、男子と女子が分かれてしまう、いつもの仲間で固まろうとする、というような教室内で起こりがちな状況を念頭に、既存の壁を自然に崩すようなアクティビティを体験しました。何気ないように見えて、緻密に考えられたお題や、アクティビティの順序に、構成の重要性を感じました。「宮城県といえば」という質問に対して、宮城県民が持つ答えと、宮城県外の人が持つイメージに差があるという例では、多面的なものの見方、価値の多様性はごく身近なものごとにもあるのだと氣づきました。また、ファシリテーターとして自分自身が知見を広く持っているお題で、参加者一人一人と少しでも言葉を交わしながら場を進めていく、というようなテクニックについても、学ぶことができました。

講演会では、実際の小、中、高校、大学などでの実践の例から、演劇教育はホームルーム活動だけでなく、様々な科目において、ものごとを深く掘り下げて考えていくための手段として有効であるということを知りました。実際にリアリティを備えた演技を行うためには、思い込みで補うことなく、徹底的に事実を観察すること、それぞれの立場での行動の背景を掘り下げることが必要になることから、自ずと扱う対象を深く考察していくことになる、ということを学びました。また、教科書的な正解をそつなくこなすよりも、様々なイレギュラーを包含した舞台づくりをしたほうが、結果的に楽しいということがわかり、生徒のモチベーションにつながっていくのかな、と思いました。

価値観が多様化する社会において、異なる背景を持った人が、なぜその行動をしたのかを理解する力。容易には理解し合えないからこそ、言葉を重ねて、建設的な妥協点を見つけながら生きていく力。そのようなものを少しでも身につけられるような学校教育を実践していきたいと、プログラムを通して感じました。

（仙台市 たぬきのこ）

読者の声

Voice Park

読者と編集部のキャッチボール

第 50 号 児童文学

子供達の活字離れが思ってた以上にありびっくりしました。私の子供の頃は図書館で本を借りて読んでいましたけどね。本を読む楽しさを子供達に教えてあげたい。 （柴田町・53 歳）

編：中地先生の「塾や部活動で忙しい現代の子どもたちは、読書に時間を割くことが難しい」とのお言葉に、そうかも知れない、と感じてしまいました。何かと多用で他の娯楽もある現代だからこそ、改めて読書の魅力を伝えていきたいですね。

コロナ渦中にいる研究者の方々の苦労や工夫、研究環境の変化、情報伝達の仕方・対処など、取材に加えると今ならではの「学びの庭」をとらえる機会になるのではないかと思いました。イベントの少ない閉ざされた時間を、どのような思いで過ごしているのかと考えました。 （仙台市太白区・55 歳）

編：オンライン授業、ハイブリッド授業など、先生方もご苦労が多いと思われます。誌面に限りがあるので記事中に表現できるかはわかりませんが、取材の中でお聴きできればと思います。

小生は仙台文学館友の会の会員です。展示物、企画等での学芸員さんのご努力を改めて認識した次第です。 （大河原町・66 歳）

編：文化施設は建物や場所だけではなく、企画も重要ですね。仙台文学館の取り組みはとても興味深く、今後の企画も楽しみです。

その他のお便りと編集部からのコメントは Web 版でご覧いただけます。

参加体験記

編集部も「学び」イベントに行ってきました

＜市民公開講座 No.508 ＞
■「5G って何だろう？」（オンライン講座）
講師：工藤栄亮 氏（東北工業大学情報通信工学科 教授）
2020 年 11 月 24 日（火）18：00〜19：15

東北工業大学の市民公開講座のサイトから申し込み、はじめてオンライン講座を受講しました。開催当日の午前中、申し込み時に登録したメールアドレスに招待メールが届き、メール内の URL から講座開始の 15 分前には「入室」可能になります。

Zoom というオンラインビデオ会議・セミナーサービスを利用したのですが、はじめての場合は Zoom をダウンロードしてインストールする必要があるので時間に余裕を持って準備をすると良さそうです。

今回参加した講座はライブ動画を見るような感じで参加者側の映像はお互いに見えませんし、先生側にも参加者の様子は見えていません。「入室」後、初心者にもわかるように機能の使い方を示してくれたので困ることはありませんでした。今回は録画、録音、画面キャプチャは禁止でした。注意事項はしっかり聞いておきましょう。

5G の G とは何かという 3 択問題から始まり「手を挙げる」機能で解答しました。G はジェネレーション、つまり 5G は第 5 世代です。10 年を目安に 1 世代（G）が生まれ変わり、1980 年代に音声サービスの 1G、1990 年代に 2G でデジタル化、2000 年代に音声＋データ通信の 3G が現れ、2010 年代の 4G でスマートフォンが普及しました。

そして 2020 年、より高速より大容量な通信ができる 5G が現れ、様々な分野での活用が想定されています。過去にはポケベルのように開発者の想定外の使い方が生まれたこともあるため、活用法はユーザー次第でさらに大きく広がっていくだろう、ということでした。

「ここだけ電波が入らない」現象についてグラフを用いて解説してくださったのですが、やや難しめでした。目には見えない多くの電波が重なり合って互いに強め合ったり弱め合ったりしており、その弱め合う点が、電波が入らないポイントになるという概要でした。

以前から 5G 通信エリアが随分ピンポイントだと感じていましたが、その理由も分かりました。5G になるにあたり現在の基地局を単純に置き換えていくのではなく、1 つ 1 つの基地局のサイズは小さく、通信範囲も狭め、そのかわり基地局の数を多く設置するスモールセルという考えが主流になっているそうです。これまでは基地局がない過疎地もあったけれど、たとえば自動運転が本当に必要なのは交通網の発達した都市部より過疎地であり、そのような場所に小さな基地局を作るとその地に合った課題に対応しやすくなるのこと。

通信速度が上がることで技術的には遠隔手術のような高度な活用も可能になる一方で、医療福祉の現場でそれを実現させるには法整備も課題とおっしゃっていました。

先生から参加者の様子が見えない形式だったのでメモをしている間もどんどん話が進んでしまい遅れないように氣を付けなくてはなりませんでしたが、終了後に Q&A 機能を使って質問の時間があったり、後日メールでアンケートに答える際に質問を受け付けてもらえたりと、オンラインならではの利点もあります。わたしはアンケートに感想とともに「招待メールに講座の簡易レジュメを添付してもらえたら助かる」旨を書いて送りました。オンライン講座がさらに受講しやすくなることを期待しています。

（「まなびのめ」編集部 三上志穂）

参加体験記

「学び」イベントに参加したら感想を書こう!

読者の皆様が参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。
掲載採用させていただいた方のうち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈!
ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント!
※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。
■ 投稿方法 はがき、FAX、E-mail、Web版投稿フォームにて受付。
■ 投稿先 「まなびのめ」編集部 ※詳細は最終ページをご覧ください。

第50号 まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第50号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1 2019年度調査では高校生の「不読率」は何％？
答え 55.3%

Q.2 宮城県在住の3人の児童文学作家による、第3作まで刊行されている作品は？
答え『みちのく妖怪ツアー』

図書カード1,000円分 図書カード1,000円分 図書カード1,000円分

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から**抽選で3名様に図書カード**が当たりますので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

これからの主な「学び」イベント

詳細は Web 版に掲載しております。http://manabinome.com/

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

2 FEB

2020 年度ジェンダー論講座 公開講座「塀の中の女性たち〜犯罪の背景にあるもの」

2月13日(土) 13:30▶15:30 有料 要申込

講師 佐藤理絵氏（元東北地方更生保護委員会委員）

場所 エル・パーク仙台 セミナーホール 定員 50 名

主催者 公益財団法人せんだい男女共同参画財団 問合先 TEL 022-268-8300

大人の科学教室 ⑤「日時計の製作と天文の話」

2月21日(日) 10:00▶12:00 無料 要申込

（申込〆切 2/5(金)）

場所 スリーエム仙台市科学館 1 階 市民の理科室 定員 10 名

主催者 スリーエム仙台市科学館 問合先 TEL 022-276-2201

特別展・関連行事 講座「近代日本の感染症〜仙台のスペイン風邪〜」

2月27日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講師 川内淳史氏（東北大学災害科学国際研究所准教授）

場所 仙台市歴史民俗資料館 定員 30 名

主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合先 TEL 022-295-3956

令和 2 年度れきはく講座 第 6 回「お殿様と絵画、藩士と絵画」

2月27日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講師 大久保春野氏（東北歴史博物館学芸職員）

場所 東北歴史博物館 3 階講堂 定員 290 名

主催者 東北歴史博物館 問合先 TEL 022-368-0106

3 MAR

令和 2 年度れきはく講座第 7 回「今こそ“医は仁術”！忘れていませんか…？〜スペイン風邪と新型コロナをめぐって〜」

3月 6日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講師 渡邊直樹氏（東北歴史博物館学芸職員）

場所 東北歴史博物館 3 階講堂 定員 290 名

主催者 東北歴史博物館 問合先 TEL 022-368-0106

大人の科学教室 ⑥「飛行機はなぜ飛ぶのか」

3月 7日(日) 10:00▶12:00 無料 要申込

（申込〆切 2/19(金)）

場所 スリーエム仙台市科学館 1 階 市民の理科室 定員 10 名

主催者 スリーエム仙台市科学館 問合先 TEL 022-276-2201

令和 2 年度れきはく講座第 8 回「貞観津波堆積層の構造と珪藻分析―宮城県多賀城市山王遺跡東西大路南側溝・山元町熊の作遺跡からの検討―」

3月13日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講師 相原淳一氏（東北歴史博物館学芸職員）

場所 東北歴史博物館 3 階講堂 定員 290 名

主催者 東北歴史博物館 問合先 TEL 022-368-0106

民俗芸能講座「口承文芸の世界」第 3 回「女川口説―書承という伝承」

3月14日(日) 13:30▶15:00 無料 要申込

場所 東北歴史博物館 1 階研修室 定員 60 名

主催者 東北歴史博物館 問合先 TEL 022-368-0106

「まなびのめ」主な設置場所

「まなびのめ」紙版は、主に下記の場所で入手できます。見当たらないときはお氣軽にお問い合わせください。

- **宮城県内各大学**
- **宮城県内主な文化施設**（宮城県図書館、宮城県美術館、東北歴史博物館、仙台市各図書館、仙台市博物館、仙台文学館、スリーエム仙台市科学館、地底の森ミュージアム、仙台市歴史民俗資料館、仙台市天文台、感覚ミュージアムなど）
- **宮城県内主な会館**（東京エレクトロンホール宮城、日立システムズホール仙台、トークネットホール仙台、仙台市戦災復興記念館、名取市文化会館、岩沼市民会館、えずこホール、白石市ホワイトキューブ、まほろばホールなど）
- **主な市民センター**（仙台市）、**公民館**（仙台近郊）、**公立図書館**（仙台近郊）など

「まなびのめ」配色法：襲色目（かさねのいろめ）
第 51 号・冬／「枯色」（kare-iro）